

令和元年6月18日現在

機関番号：20105

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2016～2018

課題番号：16K12030

研究課題名(和文)クリティカルケア看護における専門看護師の直接的ケアコンピテンシーと到達度

研究課題名(英文)Identifying direct care competencies and achievement level of the critical care certified nurse specialist

研究代表者

菅原 美樹 (SUGAWARA, MIKI)

札幌市立大学・看護学部・准教授

研究者番号：60452992

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円

研究成果の概要(和文)：わが国の専門看護師には実践・相談・教育・調整・倫理調整・研究の役割があり、患者・家族・集団に対する実践は専門看護師の中心的な能力に位置づけられている。クリティカルケア看護の専門看護師(以下、CCNSとする)が期待される役割を發揮するためには、卓越した実践能力の獲得が必要不可欠であるが、CCNSの実践に焦点化したコンピテンシーは明らかにされていない。そこで思考や行動、意欲、態度などを含む直接ケアコンピテンシーと到達度を明らかにすることを目的とした。文献検討とフォーカス・グループ・ディスカッションの結果、CCNSの直接ケアコンピテンシーは、226コード、62サブカテゴリ、16カテゴリに集約された。

研究成果の学術的意義や社会的意義

日本のCNSは米国で提唱された高度実践看護モデルを基盤に役割開発をしてきたが、本研究によって日本独自のCCNSの卓越した実践における直接ケアコンピテンシーを明確にすることができる。コンピテンシーが明確になることで、CCNSをめざす大学院生にとっては、自身のコンピテンシーの獲得状況の確認や課題とするコンピテンシーを明確にして、自己研鑽することが可能となり、実践力強化につながると考える。教育機関においては、コンピテンシー評価に活用することで、大学院生のレディネスや獲得状況が把握でき、教育方法の工夫・改善の一助とすることができるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：The roles of CNSs are excellent nursing practice, consultation with care providers including nurses, coordination among the concerned parties, ethical coordination to protect the rights of individuals, etc., education of nursing personnel, and research activities at clinical settings. Among those roles, nursing practice for patients, families, and groups takes the central position of CNS'competencies. Identifying CCNS'direct care competencies enables CCNS to review and evaluate their nursing practice.

The purpose of this study was to identify the direct care competencies of CCNS, including their thoughts, behavior, desires, and attitudes. 10 documents describing CCNS'direct care competencies were retrieved from the national medical database for qualitative analysis, followed by focus group discussions (FGD) among six CCN engaged in clinical practice for over five years. Extracted as a result were 226 codes, 62 subcategories, 16 categories concerning CCNS'direct care competencies.

研究分野：急性期看護学

キーワード：専門看護師 クリティカルケア看護 コンピテンシー 直接的ケア

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19、CK - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

(1) 専門看護師 (Certified Nurse Specialist 以下、CNS とする) には、卓越した看護実践・教育・相談・調整・研究・倫理調整の6つの役割機能を発揮することが求められており、これまでに特定の看護分野において、看護ケアの質の向上や健康・療養生活の質の向上に貢献してきた。現在、わが国では、変化する医療状況に対応するため、CNS をグローバル水準の高度実践看護師 (Advanced Practice Nurse) として育成し、その制度化に向けた検討が日本看護系大学協議会を中心に進められている。つまり、CNS には高度実践看護師としての役割・機能を強化しつつ、時代のニーズに即した新たな役割や裁量権の拡大が期待されている。

(2) クリティカルケア看護の CNS (Critical care Certified Nurse Specialists 以下、CCNS とする) は、不慮の事故、急性疾患または慢性疾患の急性増悪により、急激に生命が脅かされた患者に対して集中的かつ濃厚な看護ケアを提供し、患者およびその家族を支援し、医療スタッフ間の調整などを行いながら、最善の医療が提供されるよう支援する役割を持つ。現在、わが国では、より高度な急性期医療を担う病院とそうでない病院とに機能分化されつつある。高度急性期を担う病院は急性期患者に対して、状態の早期安定化に向けた診療密度の濃い医療を提供する機能が求められ、こうした現状からも CCNS には、医師や多職種と連携し、その卓越した看護実践能力をより一層、発揮することが期待されている。

(3) その一方で CNS 教育の課題として、実践力の強化、修了時のコンピテンシーの明確化、質の担保と量のバランスの確保、実践能力と研究能力のバランスの確保などが挙げられている。クリティカルケア看護の範疇は救命救急処置や集中治療が提供される超急性期から呼吸・循環動態が安定化する急性期を包含する。そのため学生の入学前の臨床実践経験は救急・集中治療部門から一般病棟まで多様である。その実践能力においては個々の学生がどのような看護実践経験を積んできたか、その内容の質と量にバラつきがあるのが現状である。こうした学生の背景を把握したうえで、高度実践看護師としての実践力を強化していくには、CCNS の直接的ケアコンピテンシーとその到達度を明確に示す必要がある。

2. 研究の目的

本研究の目的は、以下の2点である。

(1) CCNS の直接的ケアコンピテンシーを CNS の6つの役割との関連性に注目し、国内文献から質的帰納的に明らかにすること。

(2) 文献検討により抽出された直接的ケアコンピテンシーについて、臨床現場の CCNS をメンバーとしたフォーカス・グループ・ディスカッションによって内容妥当性と到達度を検討すること。

3. 研究の方法

(1) 文献調査

直接的ケアコンピテンシーは、専門看護師の実践能力の中でも患者・家族の持つ複雑な健康問題に対する卓越した実践能力であり、中心的能力として位置付けられている。このコンピテンシーを構成する枠組みを検討するために、米国クリティカルケア看護協会の AACN Scope and Standards for Acute Care Clinical Nurse Specialist Practice (AACN 急性期ケア CNS の実践の範囲と基準) を邦訳し、内容を確認した。

CCNS の直接的ケアコンピテンシーを質的帰納的に明らかにするために、医学中央雑誌 Web 版を用い、国内文献を検索した。検索期間は 2005 年から 2017 年とした。キーワードを「急性・重症患者看護専門看護師」とし、「原著論文」で検索すると 6 件が抽出された。「コンピテンシー」「実践」「役割」を組み合わせた AND 検索では 0 件となったため、CCNS の実践が記述された事例報告、実践報告、解説に範囲を広げて検索し、原著論文 3 件と解説 7 件の合計 10 件を分析対象とした。分析方法は、「患者・家族に対する実践内容やアセスメント、活動の意図、意欲」について記述された部分を 1 文脈とし、「CCNS の思考、実践内容、態度、意欲」に関する記述を 1 記録単位とした。Berelson の内容分析を参考に、意味内容の類似性に基づいてサブカテゴリ化し、カテゴリ化した。

(2) フォーカス・グループ・ディスカッション

5 年以上の臨床実践経験のある CCNS 6 名を対象とし、フォーカス・グループ・ディスカッションを実施した。議論のテーマは、文献から抽出した CCNS の直接的ケアコンピテンシーについて、わが国の CCNS の臨床実践の現状を反映しているか、CCNS への役割期待が反映されているか、コンピテンシーの表現は適切であるかの 3 点とした。また、その到達度レベルについて (1 = 入学前、2 = 在学中、3 = 修了後) について検討した。場所は東京都内の会議室とし、FGD の時間は 120 分以内とした。研究実施にあたっては、研究者らが所属する施設の倫理委員会の承認を得た。

4. 研究成果

(1) 文献調査

米国クリティカルケア看護協会の AACN Scope and Standards for Acute Care Clinical Nurse Specialist Practice (AACN 急性期ケア CNS の実践の範囲と基準) では、急性期ケア CNS の臨床実践のスタンダードと専門的パフォーマンスのスタンダードが示されていた。臨床実践のスタンダードには、看護過程が位置付けられ、CNS は、患者/家族、看護/看護実践、組織/制度の3つの領域において、アセスメント、診断、転帰の同定、計画、実施、評価について期待されるパフォーマンスが行動レベルで示されていた。また、専門的パフォーマンスのスタンダードには、専門的実践の質、個々の実践評価、専門性の向上、同僚間の関係、倫理、連携、研究/臨床調査、リソースの活用、リーダーシップ、システム思考を含む専門的役割において、求められる行動レベルが記述されていた。

内容分析の結果、CCNS の直接的ケアコンピテンシーは、226 コードから 61 サブカテゴリ、さらに 16 カテゴリが生成された。16 カテゴリは、看護過程の展開に関するコンピテンシー群、卓越した実践を推進するコンピテンシー群、卓越した実践を支えるコンピテンシー群に分類された。看護過程に関するコンピテンシー群は、8 つのカテゴリから形成された。卓越した実践を推進するコンピテンシー群は、6 つのカテゴリで形成された。卓越した実践を支えるコンピテンシー群は、2 つのカテゴリで形成された。

(2) フォーカス・グループ・ディスカッション

内容分析で抽出した CCNS の直接的ケアコンピテンシーの 61 サブカテゴリと 16 カテゴリについて、フォーカス・グループ・ディスカッションを実施して、コンピテンシー表現の適切性や役割期待について議論した結果、62 サブカテゴリと 16 カテゴリに集約された。以下、カテゴリを【 】サブカテゴリを < > で表記し、結果を説明する。

看護過程に関するコンピテンシー群は 8 つのカテゴリから形成された。【回復の可能性を見通した包括的なアセスメント】のカテゴリは、< 包括的に病歴を聴取し、生理的・機能的変化の評価に必要な身体診察をする>、< 現状評価と転帰の評価をするために呼吸・循環・代謝機能データを中心に取得する>、< 回復に影響を及ぼす可能性のある併存疾患を認識する>、< 回復に影響を及ぼす可能性のある心理社会的問題の存在を認識する>、< 2 次的合併症と自立・安全に関する潜在的なリスクを認識する>、< 患者 - 家族および家族間の関係性やダイナミクスを認識する> のコンピテンシー内容から構成された。【批判的思考による問題の特定と優先順位づけ】のカテゴリは、< データを解釈・統合して全体像を把握し、批判的思考を用いて問題を明確にする>、< 患者・家族・他職種と協力して問題に優先順位をつける> のコンピテンシー内容から構成された。【多角的視点によるアウトカムの設定】のカテゴリは、< 患者・家族・他職種と協力して患者の現状、潜在能力、価値観、環境に見合った目標を決定する>、< 目標達成に向けて段階的な指標を設定する> のコンピテンシー内容で構成された。【分析的な思考と判断による最適なケア計画の立案】のカテゴリは、< 安全で最適なケアを提供するために看護チームの特性・ケア能力を分析する>、< 看護スタッフとコミュニケーションをとり、患者のニーズを満たすケアを判断する>、< 安全で最適なケアについて CNS の思考と判断を看護チーム・スタッフに説明する>、< 患者の転帰を最適化するために専門職連携の必要性を判断する>、< 患者の転帰を最適化または改善するために根拠に基づく推奨されるケアを決定する>、< 複雑な患者・家族の多面的なニーズを満たす包括的なケアを計画する> のコンピテンシー内容から構成された。【患者・家族を中心としたケア計画の個別的な調整】のカテゴリは、立案したケア計画を実行する際に個別的な調整をすることであり、< 患者・家族に合わせて根拠に基づくケアを個別に調整する>、< 患者・家族、他職種と協力してケア計画の実施を個別に調整する> から構成された。【患者の転帰を最適化する看護実践】のカテゴリは、< 根拠に基づく臨床ガイドラインやケアを特定の患者に適合させて実施する>、< 患者の転帰に焦点化したケアを実施する>、< 実践の評価過程で得た情報に基づいて、診断・予測転帰・ケアを適時に変更する>、< 専門職連携および根拠に基づくケアの実践によって患者の転帰を最適化する>、< 質の高いケアを促進する方略を特定しケアや実践を変革・発展させる> から構成された。【専門知識・技能に裏付けされた個別的看護実践】のカテゴリは、専門看護師教育課程等で修得した知識や技能を基に患者・家族に個別的な看護実践をすることであり、< 薬理学的知識と技能に基づき、薬理学的介入や非薬理学的ケアを実践する>、< 病態の専門知識と技能に基づき、安全と自立を考慮したセルフケアを支援する>、< 病態の専門知識と技能に基づき、治療に伴う苦痛を緩和する>、< 呼吸循環の専門知識と技能に基づき、予測性のある呼吸循環管理を実践する>、< 患者・家族の心情をとらえた意思決定を支援する>、< 患者・家族に生じるストレス・危機の専門知識に基づき、個別的に介入する>、< 患者・家族が抱く悲嘆・苦悩に対するケアを実践する> から構成された。【多角的・多面的視点による実践評価】のカテゴリは、< 医療チームメンバーの臨床実践を評価する>、< 患者中心の安全で効果的・効率的・公正なケアを保証するために看護実践および組織を評価する>、< 患者への適切性を判断するためにケア、ガイドライン、プロトコールを評価する>、< 患者・家族/看護実践/医療チームにおける医療上の転帰に対する CNS の実践の効果を評価する> といったコンピテンシー内容から

構成された。

卓越した実践を推進するコンピテンシー群は、以下の 6 つのカテゴリから形成された。【様々な倫理的問題に対処するための調整】のカテゴリは、臨床で遭遇する様々な倫理的問題に対処するために調整することである。＜治療や終末期ケアにおいて倫理的意思決定ができるように患者・家族・医療者を調整する＞、＜倫理的なケア提供を広める職場風土づくりを推進する＞、＜医療チームメンバーに生じる倫理的葛藤を倫理原則を用いて調整する＞、＜倫理的感受性を醸成させるために職場の環境を調整する＞のコンピテンシー内容から構成された。【最適なケア提供に向けた人的・物的環境の調整】のカテゴリは、最適なケアを提供するための調整であり、＜医療チームメンバーに生じる対立やストレスを調整する＞、＜迅速かつ円滑に最適なケアを提供するために業務・人を調整する＞のコンピテンシー内容から構成された。【患者の転帰を最適化する教育的支援】のカテゴリは、＜患者の転帰を改善するために患者・家族に指導・教育する＞、＜ケアの質改善や根拠に基づく実践のために必要な教育を組織内で企画・運営する＞、＜ケアの質改善や根拠に基づく実践のために患者・家族/看護スタッフ/他職種に学習を促す＞、＜看護チームの成長を促進するために実践活動を通して教育的にかかわる＞から構成された。【研究成果の吟味と活用】のカテゴリは、＜研究成果の看護実践への活用可能性を分析する＞、＜研究成果を看護スタッフに周知する＞、＜研究成果を看護ケアに効果的に導入する＞から構成された。【患者・家族のアウトカム達成に向けた相談】のカテゴリは、＜患者のアウトカムを達成するために必要な資源を導入するためのコンサルテーションを行う＞、＜個々の患者のケアに関する専門的コンサルテーションを行う＞、＜自身のサブスペシャリティに応じたコンサルテーションを看護スタッフや他職種に行う＞から構成された。【他職種連携を促進するリーダーシップ】のカテゴリは、＜チームとして機能するように他職種の専門性の尊重と理解を促進する＞、＜安全/質の改善/根拠に基づく実践/研究から臨床への移行に対するアプローチにおいて、専門職間の連携を促進する＞、＜専門職の機能を発揮できるようにシステム構築を促進する＞、＜医療チームにおける調整的役割を自覚し、リーダーシップをおよび責任能力の点で役割モデルとなる＞から構成された。

卓越した実践の基本となるコンピテンシー群は、次の 2 つのカテゴリから形成された。【相互理解・相互関係を深化させるコミュニケーション】のカテゴリは、＜看護管理者との有益なコミュニケーションによって役割の相互理解を促進する＞、＜コミュニケーションを駆使して患者・家族 - 看護師の相互関係の深化を支援する＞、＜高いコミュニケーションスキルを用いて医療チームの対人関係問題に介入する＞から構成された。【研鑽による専門的実践の維持・向上】のカテゴリは、＜自己研鑽し、専門的なパフォーマンスを向上させる＞、＜専門的実践や教育活動に自発的に従事する＞、＜専門的な認定資格を自発的に維持する＞、＜専門的実践能力を維持・向上するために他者評価・自己評価する＞から構成された。

到達度については、看護過程に関するコンピテンシー群の 8 つのカテゴリについては、入学前～在学中に到達すべきが、75%の回答であった。卓越した実践を推進するコンピテンシー群の 6 つのカテゴリについては、専門看護師の役割実践に関するコンピテンシーであるため、在学中～終了後の到達が 85%、卓越した実践の基本となるコンピテンシー群の 2 カテゴリは、在学中～終了後の到達が 70%の回答であった。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 0 件)

〔学会発表〕(計 1 件)

Miki SUGAWARA, Keiko NAKAMURA

Identifying direct care competencies of the critical care certified nurse specialist in Japan

22nd East Asian Forum of Nursing Scholars 2019

〔図書〕(計 0 件)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等 なし

6. 研究組織

(1) 研究分担者

研究分担者氏名：中村 恵子

ローマ字氏名：NAKAMURA Keiko

所属研究機関名：札幌市立大学

部局名：看護学部

職名：特任教授

研究者番号(8桁): 70255412

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。